

栗原の稲作通信

第4号 令和8年7月8日発行

宮城県栗原農業改良普及センター

宮城県米づくり推進栗原地方本部

電話番号 0228-22-9404

○今後の栽培管理のポイント○

1. 目標茎数確保後の中干しとその後の水管理を適切に行いましょう。
2. 品種や生育量に合わせた追肥を行いましょう。
3. 斑点米カメムシ類の本田への侵入を防ぐため、水田畦畔の草刈りは出穂10日前までに終わらせましょう【令和8年度草刈り自粛期間：7/21（火）～8/21（金）】。

1. 気象経過

○6月は、気温はおおむね平年並みで、降水量と日照時間は平年並み～多く推移しました。

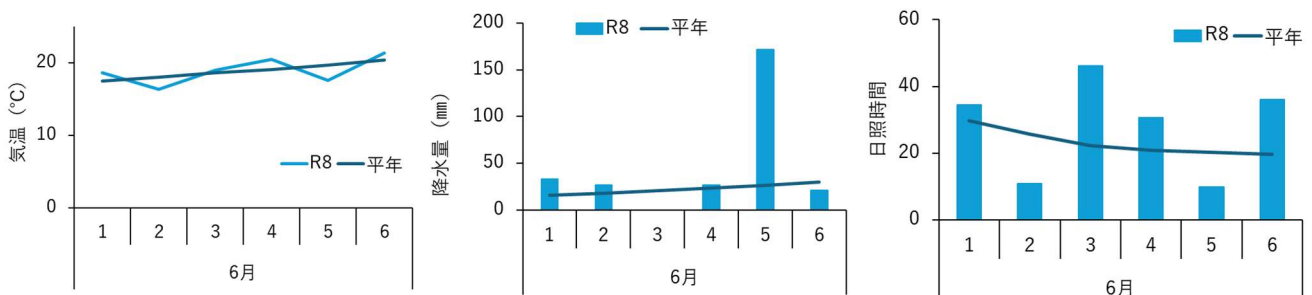


図1 6月の気象経過（築館アメダス）

2. 生育状況（7月1日現在）

1) 移植水稻

○古川農業試験場の5月11日移植の「ひとめぼれ」では、5月下旬以降、過去5年平年値よりやや低温の傾向が続いたことから、7月1日現在の葉数は平年より0.6枚少なく、生育ステージは4～5日程度遅くなっています。草丈は平年比91%、茎数は106%、葉色は平年差3.0ポイント高い状況です。

○管内の「ひとめぼれ」は、若柳では平年と比べて、草丈はやや短く、茎数は少なく、葉数は並、葉色は-2.0ポイント低くなっています。また、一迫では平年と比べて、草丈は並、茎数はやや少なく、葉数は少なく、葉色は+4.7ポイント高くなっています。

表1 7月1日 生育調査結果（移植水稻）

品種	地区	田植日			草丈(cm)			茎数(本/m ²)			葉数(枚)			葉色(GM値)		
		本年	前年 差	平年 差	本年	前年 比	平年 比	本年	前年 比	平年 比	本年	前年 差	平年 差	本年	前年 差	平年 差
ひとめぼれ	若柳	5/20	1日遅	0日早	49.8	85	90	477	96	81	9.8	-0.2	0.1	41.1	4.1	-2.0
ひとめぼれ	一迫	5/14	1日遅	2日遅	49.2	87	98	392	120	96	8.8	0.0	-1.4	45.3	8.1	4.7
ひとめぼれ	県平均	-	-	-	48.5	83	88	460	91	89	-	-	-	42.5	2.7	0.9
ひとめぼれ	古試	5/11	-	-	49.5	84	91	701	118	106	9.1	-0.7	-0.6	44.4	3.7	3.0
つや姫	築館	5/25	3日早	2日遅	45.0	82	91	333	94	86	9.1	-0.8	-0.2	45.5	6.5	1.0

注1：平年値は過去3年間（令和5～7年）の平均値。

注2：「ひとめぼれ 県平均」は県内各普及センター及び古川農業試験場における18地点の生育調査結果の平均。

2) 乾田直播水稻

○管内の乾田直播ひとめぼれの生育状況は、草丈は 41.1 cm で前年と同程度、茎数は 497 本/m² で前年より多く、葉色（GM 値）は 35.8 で前年より+5.3 ポイント高くなっています。

3. 今後の栽培管理のポイント

1) 適期の中干しとその後の水管理について

- 必要茎数を確保したら中干しを実施します（必要茎数は「栗原の稲作通信（第3号）」参照）。
- 中干しは、土の表面に軽くひびが入る程度を目安に行います。中干し期間は7～10日間とし、遅くとも幼穂形成期（昨年の生育調査ひとめぼれで7月第2半旬頃）の前には終了します。
- 必要茎数が確保されていない場合は中干しを行わず、浅水管理等により分けつを促し、必要茎数確保に努めましょう。
- 中干し直後は走り水程度とし徐々に湛水状態に戻しましょう。その後は出穂期まで間断かん水または飽水管理を基本とします。
- 幼穂形成期（幼穂長1～2mm）から減数分裂期（幼穂長3～12cm）にかけて、最低気温が17℃以下の日が続く場合は深水管理を行い、幼穂を保護しましょう。

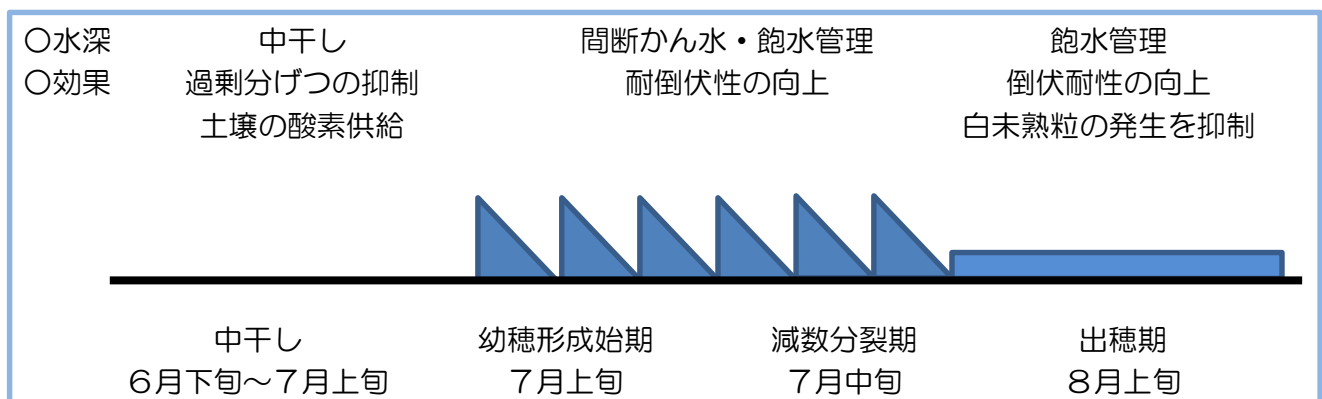


図2 今後の水管理体系

2) 品種や生育量に合わせた追肥について

出穂後の高温により白未熟米が発生する年が増えています。追肥により幼穂形成期以降の稲体の栄養状態を良好にし、デンプン合成や光合成活性を維持することで、白未熟米の発生抑制及び収量・品質の安定化が期待されます。追肥の施用時期によって効果や影響が異なるので、注意が必要です（表2）。

表2 追肥の主な効果・影響（◎：効果高い ○：効果あり ×：悪影響あり）

		穂数の増加	1穂穎花数の増加	1穂穎花数の減少防止	登熟の良化	下位節間の伸長と倒伏	玄米タンパク質増加
施用時期	幼穂形成期	○	◎	○		×	
	減数分裂期		○	◎	◎		
	穂揃期				○		×

○葉色が淡くなっているほ場や生育量が不足しているほ場では追肥を行きましょう（表3）。

○幼穂長、生育量を把握し、品種毎に適期に適量の追肥を行きましょう（表3）。

○有機入り肥料を追肥で使う場合は、肥効が現れるまで時間がかかるので、早めに施用します。

表3 追肥時期の生育量と追肥量の目安 *生育量の範囲内から下回る場合に追肥が可能です

品 種	幼穂形成期（幼穂長1～2mm）			減数分裂期（幼穂長3～1.2cm）		
	茎数（本/㎡）	葉色	追肥量(窒素成分)	茎数（本/㎡）	葉色	追肥量(窒素成分)
ひとめぼれ	470～530	38～40	1kg/10a	450～500	35～37	1kg/10a
ササニシキ	720～760	34～36	（しない）	550～580	32～34	1～1.5kg/10a
つ や 姫	550～580	35～37	2kg/10a	-	-	（しない）

4. 病虫害防除

病虫害防除所 発生予報第3号 （宮城県病虫害防除所 6/24 発行）

▶葉いもち……発生量「平年並」

発生時期（全般発生期）「7月第3半旬：7/11～7/15（平年並）」

○ほ場を入念に見回り、葉いもちの病斑を確認したら直ちに防除しましょう。特に、穂いもちの伝染源となる上位葉での感染には注意が必要です。

○萌えみのりや金のいぶき等、いもち病に弱い品種や、予防防除を行っていない直播栽培等では注意します。

▶紋枯病……発生量「やや多」

○高温多湿が発生に好適です。前年に紋枯病が多発したほ場では、穂ばらみ期～出穂期に防除を行うとともに、多発が予想される場合には穂揃期に茎葉散布剤を散布しましょう。

▶斑点米カメムシ類……発生量「平年並」

発生時期（第1世代発生盛期）「7月第3半旬：7/11～7/15（やや早い）」

○畦畔の草刈りや牧草の刈取りは、出穂の10日前までには終わらせましょう。出穂直前の草刈りは、斑点米カメムシを水田に追い込むことになるので避けましょう。

○本年度の栗原市の水稻出穂前後の草刈り自粛期間は、7/21（火）～8/21（金）です（栗原市水稻カメムシ被害抑制対策本部）。

○斑点米カメムシ類の防除は、穂揃期とその7～10日後の2回防除を徹底しましょう。

.....

■農薬危害防止運動実施中 実施期間 6月1日～8月31日

農薬の使用に当たっては、必ずラベルに記載された適用病虫害、使用方法、最終有効年限等を確認して、定められた方法を厳守しましょう。最新の農薬登録情報は、農林水産消費安全技術センターのホームページで確認することができます。

■農作業中の熱中症に注意しましょう！！

熱中症死亡事故の約85%が7～8月に発生しています。熱中症は正しい知識を身に付けることで、適切に予防することが可能です。

■大区画化等加速化支援事業(国庫補助事業)の要望量調査が実施されています！

水田の区画が小さく、作業が非効率となっている農業者等が、自ら取り組む畦畔除去や区画の拡大を国が支援します。詳細は、下記までお問い合わせ下さい。

※成額の例：畦畔除去のみを行う場合、4万円/100m（直営、請負とも）

お問い合わせ先：宮城県大区画化等推進協議会事務局 ☎022-263-5816（宮城県土地改良事業団体連合会内）

.....